

平成 2 9 年 度 愛 川 町 総 合 教 育 会 議

平成 2 9 年 7 月 1 2 日

平成29年度愛川町総合教育会議会議録

- 1 会議日程 平成29年7月12日(水)
午後6時00分から午後7時38分まで
- 2 会議場所 愛川町役場2階201会議室
- 3 議 題 (1) 小中一貫教育について
ア なぜ、小中一貫教育を行うのか
イ 小中一貫教育の取組
ウ 小中一貫教育の成果と課題、そして、これからの展望
(2) その他
- 4 出席者 町長 小野澤 豊
教育長 佐藤 照明
委員長職務代理者 平田 明美
教育委員 榮利 隆一
教育委員 梅澤 秋久
教育委員 大貫 洋
- 5 事務局 指導室長兼教育開発センター所長 佐野 昌美
教育総務課長 山田 正文
生涯学習課長 折田 功
スポーツ・文化振興課長 松川 清一

◎開会

○(山田教育総務課長) それでは、改めまして、皆さん、こんばんは。

定刻となりましたので、ただいまから愛川町総合教育会議を開催いたします。

進行を務めさせていただきます、私、教育総務課長の山田です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○（山田教育総務課長） それでは、開会にあたりまして小野澤町長からご挨拶を申し上げます。

○（小野澤町長） 皆さん、こんにちは。

本日は、総合教育会議にお集まりをいただきまして、大変にありがとうございます。

教育委員の皆さん方には、教育行政はもとより町行政のいろいろな面でお力添えをいただき、そしてご理解を賜っておりますことを心から、この場をおかりし、感謝を申し上げる次第でございます。

町政運営、いつの時代もさまざまな課題があるわけでございますけれども、おかげさまで本町では、予定しております各種の事業につきましては、いろいろと皆さん方のおかげをもちまして順調に進捗をしているところでございます。

特に、地方創生という、こうした時代の流れの中にあたりまして、町の知名度アップ、そしてPR、これは今の時代、大変大事なわけでございます。私も機会があるたびに、テレビ局、そして報道機関に足を運びまして、町の紹介を逐次お願いをしているところでございます。

一昨日も、NHK横浜放送局の小川局長に会議で一緒になりましたので、NHKのほうでもいろいろと今愛川町、放映をしていただいているところでございまして、そうしたお礼を兼ねて、またお願いをいたしたところでございます。そして、ほかのテレビ局でも最近はいろいろと愛川町を取り上げていただきまして、大変にありがたく思っているところでございます。

来週、22日の土曜日ですけれども、フジテレビの夕方6時半からですか、もしもツアーズでしたっけ、あれが放映をされますので、ここにいらっしゃる皆さんには、またフジテレビのほうをご覧いただければなと思っております。このときは、宮ヶ瀬ダムとかあいかわ公園、そして中津川とか、いろいろな場所を回ると思っていますので、ご覧をいただければと思っております。

どこの町村も、今、人口の社会減が進んでおりまして、愛川町ではこのところ、4月、5月、6月、この人口移動を見ますと、社会増が108人ということでございまして、これは町村にとっては大変大きな数字でございます。今、その分析をさせていますけれども、これまでの移住・定住促進事業、これも成果が徐々にあらわれてきているのかなと感じておりますけれども、これからも町として魅力ある施策を含め、いろいろと力を注いでいきたいと思っております。

そして、今年も中学2年生を対象に特別授業をさせていただいております。昨日で3校全ての中学校が終了いたしました。内容的には、愛川町の移り変わりや予算の話、そして人口推計などについて、もろもろお話をさせていただいたところでございます。生徒さんは昨年よりややおとなしい感じがいたしましたけれども、皆さん、真剣に話を聞いてくれまして大変ありがたく思っておりますし、今後に大きな期待を寄せているところでもございます。

そうした中で、昨年、小・中学校9校にエアコンを設置いたしましたところでございますけれども、子供たちからは、エアコンが使えるようになって大変よかったという話も直接聞いておりますし、授業にも集中ができるということで、特に今年は大変暑い夏ですから、私としてもほっとしておりますし、嬉しく感じたところでございます。

そして、小学生とのランチミーティング、これも引き続き今年度も実施をしていく予定でございますけれども、時期的には2学期以降に予定をしておりますので、また子供たちの願いとか思いですね、生の声を直接聞かせていただきたいと思っております。

さて、本日の会議でございますけれども、これまでは学校教育をテーマ、そして青少年教育、スポーツ振興等々について皆さんと話し合いをしてきたところでございますけれども、今回は、現在進めております小中一貫教育、これをテーマに委員の皆様方と意見をしてみたいと考えております。一言で小中一貫教育といっても、小中連携との違いなど、イメージ的にも難しい面もあるわけでございますので、なぜ、9年間を見通した教育が必要なのか、そして取り組みの状況とか、その成果と課題等について、担当のほうから説明を申し上げる次第でございます。

そして、今日は中津二小の菊池先生にお越しをいただいておりますけれども、先生からはi P o dを使った授業の手法を実践していただきたいと思っております。よろしく願います。

いずれにしても、小中連携、小中一貫教育、これには小・中学校の教職員の皆さんが義務教育、9年間の教育活動を理解し、自分たちの果たすべき役割、これをしっかりと認識をした上で、9年間の系統性を確保していくことが大変重要なのかなと私は思っております。

今日の会議が有意義な会議となりますよう、よろしく皆さんにお願いを申し上げ、開催にあたっての挨拶とさせていただきます。よろしく願います。

○（山田教育総務課長） ありがとうございます。

それでは、続きまして佐藤教育長、よろしく願います。

○（佐藤教育長） 皆さん、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました教育長の佐藤です。

どうぞよろしくお願ひいたします。

教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

日ごろから教育行政の推進にあたりまして、特段のご理解とご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。この場をおかりして感謝を申し上げたいというふうに思っております。

就任して以来、1年と8カ月が経つわけでございますけれども、教育現場を取り巻くいろいろな諸課題等、本町でも多種多様でございますけれども、学力の向上をはじめといたしまして、さまざまな課題に今取り組んでいるところでございます。一步一步、着実な教育行政の推進に力を合わせて取り組んでいるところではございますけれども、今年度、おかげさまで平成27年度に作成いたしました教育大綱の教育理念、そして基本理念、そして基本目標をもとにした教育振興基本計画を作成することができまして、平成29年度から平成34年度、6年間を見通した、愛川町の教育の施策の方向性、これを示したものとなっておりますけれども、今日はその中でも施策の柱の1つとしております小中一貫教育を議題として上げていただいております。委員の皆様にもいろいろなご意見をいただくと同時に、町長部局との共通認識を深めることが今後の教育行政の発展の一助になるものと、そのように認識しております。

本日の会議が実り多いものになりますよう、どうぞ皆さん、よろしくお願ひいたします。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

○（山田教育総務課長） ありがとうございます。

それでは、続きまして議題に入らせていただきたいと思います。議長につきましては小野澤町長をお願いいたします。よろしくお願ひします。

○（小野澤議長） それでは、暫時、議長の職を務めさせていただきます。

早速、議題に入ります。（1）の小中一貫教育について、事務局のほうからよろしくお願ひいたします。

なお、部屋が暑いので、上着のほう脱ぎましょうか。

○（佐野指導室長兼教育開発センター所長） こんにちは。指導室長の佐野と申します。

小中一貫教育を核とした教育研究、教育実施について、ご報告をさせていただきます。約25分間、お付き合いいただきたいと思います。

私は各学校に昨年度回りまして、こんな紙芝居をまず先生方にご提示いたしました。小中一貫教育を押し進める指導主事の先生方への思いと掛けて、救命ボートが足りない豪華客船と解く、その心は、絶対にコウカイ（後悔・航海）させない。

では、今日のメニューですけれども、本日の話です。大きく3点、1つ目、「なぜ小中一貫教育を行うのか」、2つ目、「小中一貫教育の取り組み」、そして、3つ目といたしまして、「小中一貫教育の成果と課題、そしてこれからの展望」、ということでお話を進めてさせていただきます。

まずは、「なぜ小中一貫教育を行うのか」このお話からさせていただきます。

20年くらい前になります。先生方、教諭の思いといたしまして、小学校の先生はこんなことを思います。こんなに素直な子供たちが、どうして中学に行くと不良や不登校になっちゃうのだろうか。中学校でもっと愛情を注いでほしい。一方で、中学校の先生は、入学時に四則検査、足し算、引き算、掛け算、割り算ができないなんて手遅れ。小学校で最低限の学力をちゃんと身につけてから卒業させてほしい。そういうところで、対立まではいきませんが、思いのすれ違い、見えない壁というのがありました。

一方、子供たちの生活も小学校、中学校で激変をします。

まず、学級担任制と教科担任制、私服と制服、部活動があり、部活動の先輩との関係がある、緩やかな児童指導に対して厳しい生活指導、單元ごとのテストに対して中間・期末テスト、自校給食に対してデリバリー型給食。また、中学校におきましては、2つの小学校から1つの中学校に集まりますので、新しい、他校との人間関係というものにも気を使わなくてはなりません。ということで、子供たちの生活においても、ここに見えない壁のようなものがございました。

こちらは、全国の、国の児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題の結果です。

平成25年度の結果です。まず、いじめの認知件数ですけれども、ここにご注目ください。小6と中1の間で48%増えます。暴力行為の加害児童数です。小6と中1の間で、何と132%も増えています。不登校に至っては、何と180%も増えております。これがいわゆる中1ギャップと言われるものです。

さて、小学校と中学校、この見えない壁をどうなくしていくかということですが、例えば、中学校の先生が小学校に行って乗り入れ授業をやる。あるいは、中学校の先生が小学校に行く。小学校の先生が中学校に行く。あるいは生徒が小学校に行く。児童が中学校に行く。または、小学校、中学校の教諭、先生同士が話し合う。さらには小・中学校教諭の合同の研究会。さらには生徒と児童の交流、小・中学生の交流。こうして徐々に見えない壁をなくしていく。これが、簡単に言えば小・中の連携、さらに進めれば小中一貫教育の大まかな考え方というものです。

こちらが小中一貫教育の成果ですけれども、成果がすごくあらわれているところに赤い印をつけました。見えますか、拡大してみます。やはり一番多いのは、このいわゆる中1ギャップが緩和されたというのが一番多かったのです。こういった目的で、中1ギャップ、この解消、さらに言うと学力向上、質の高い教育、これを目指すのが本町の小中一貫教育です。

では、小中一貫教育って何をやっているのということを、この後、お話をしていきますけれども、まずご理解いただきたいのが、小中一貫教育研究と教育課程の編成という難しい言葉を使っておりますが、こちらのシートと見比べながら進めていきたいと思えます。

まず、この部分をご覧いただきたいのですが、学習指導要領が改定されまして、小学校が平成32年度から、中学校が平成33年度から全面実施されます。つまり、平成33年度から新学習指導要領が小・中ともに実施されます。この時点で、町の小中一貫教育も本格的に進められるように、今さまざまな手立てが同時進行で進んでおります。

これからお話ししますのは、この平成28、29年度のお話が中心になります。また、最初にお話しさせていただくのはこのピンクの部分、小中一貫教育研究と教育課程の編成というところでお話を進めます。研究指定、小中一貫教育研究校ということで愛川中学校区を指定させていただいておりますが、基本的には町の9校全てが、今、小中一貫教育に取り組んでおります。中でも愛川中学校区で力を入れて、県のモデル校指定を受けて取り組んでいただいているという実態です。

小中連携による教員の交流と児童・生徒の交流実践にどのようなものがあるか、写真でご説明したいと思えます。例えば、教員の交流です。小学校の先生が中学校の授業参観に行く。あるいは逆に、中学校の先生が小学校の先生の授業参観に行く。後ろに立っているのは先生方です。また、小・中の先生による合同の研究協議。ここでお互いの立場で本音をぶつけ合います。今度は児童・生徒の交流についてです。これは、中学生が小学校の校門の前で挨拶運動をしているところです。最後には、こんなふうに仲よく写真を撮って挨拶運動を行いました。これは非常に評判が良かったです。中学生による小学生への情報モラル教室です。中学生が先生となって、小学生にソーシャルネットワークサービスの危険性ですとか、スマホの使い方などをクイズ形式、〇×クイズ（マルバツクイズ）で教えているところです。これは平成15年度から始まった職場体験。中学生が小学生と一緒に給食を食べたり、昼休みに一緒に遊んで交流したりしています。これは部活動見学です。小学6年生が中学校に行って、実際に部活動の様子を見る。バスケットボール部、バレー部、さまざまな部活動の見学をしています。これは小学生の中学校への体験入学です。生徒会の生徒たちが中学校生活ってこ

んな様子だよというお話をしています。この場面は、中学校の面白い個性的な先生が多いんだよなんていう話をしているところです。ということで、今の写真とこの絵が一致するのではないかと感じていただけるのではないのでしょうか。

続きまして、小中一貫教育講演会、そして小中一貫教育研究会、研修視察についてです。これは教育講演会です。文部科学省参与、貝ノ瀬先生をお招きして、各中学校区を回ってご講演をいただきました。また、伊住彰三先生につきましては、今、モデル指定を受けています。愛川中学校区で、指導助言者としてもご協力をいただいております。これは研修視察です。小中一貫の先進校である三鷹市、その三鷹中央学園に視察に行きました。本町から二十数名の先生たちが訪れました。当日は、小学校の合奏指導を中学校の吹奏楽部の先生が指導している場面に出くわしました。

続きまして、ここで小中一貫教育検討会、連絡会、協議会、研究会、ややこしい名前がたくさん出てきますので、図でご説明をさせていただきたいと思います。学校の先生たちをピラミッドで示しますと、上の部分を校長先生、そして小中一貫教育の担当者とします。こういった各学校で行うのが検討会です。各学校が全員の先生で、各学校ごとに行うのが検討会です。この担当者が集まって代表の校長先生と話し合うのが、どこの中学校区にも同じようでありまして、これが連絡会です。そして、この担当者全部、9校集まって行うのが協議会というものになります。つまり、この検討会、連絡会、協議会は具体的な実践方法について話し合う場になります。

実際に検討会の様子はこんな感じです。全教職員が各学校ごとに行うもの。また、先ほどの話に出てきました講演会、それから研究会、これは中学校区ごとに行います。つまり、研究会とか講演会は、小中一貫教育のあり方について学ぶ場です。これが研究会の様子です。中学校区全部ですから、100人ぐらいいる中学校区もあります。この中学校区の子供たちの強みは何かなどについて話し合っております。また、めざす子ども像について話し合っていました。このめざす子ども像、研究会を通してようやく決まりました。それぞれの中学校区の個性があらわれた、めざす子ども像が決まったところでございます。

続きまして、グローバル化、特色ある外国語教育についてお話をさせてください。今度はこの水色の部分になります。特色ある外国語教育につきましては、今、全町的に取り組んでおりますが、このことにつきましても、愛川中学校区で本格的に取り組んでおります。例えばですが、小学1年生からの英語スタート。また兼務発令により、中学校教諭が小学校で英語の授業をしています。これが乗り入れ授業というものです。小学1年生からの英語で、英

語の絵本を読み聞かせを行っています。これが乗り入れ授業です。身振り手振りを使い、ほとんど英語しか使わない授業を小学校で行っています。子供たちも、「英語って簡単で楽しい、ゲームみたい」なんていう感想を述べているようです。ちなみに、この乗り入れ授業につきましては、先週のタウンニュースに取り上げられておりました。ご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

また、町の教育研究会という研究会がございまして、その学習指導研究部会で外国語教育について、今、研究をしています。それがこの様子ですけれども、ここで教材の扱い方なども研究をしております。また、小学校の先生が中学校の英語教諭免許の取得。今、神奈川大学に週一回通い、中学校の免許を取ってもらって、小中一貫教育に役立ててもらおうというところで取り組んでおります。これは大学の教室の一場面です。

続きまして、学力向上・授業改善。これについて、この黄緑の部分です。研究指定、中原中学校区です。この学校に今研究をしていただいております。神奈川県学びづくりという研究指定を受けてもらいまして、授業改善を中心に取り組んでいるところです。これに絡みまして、中学校に大型テレビが今年度設置されました。今まで小学校ではこのように、当たり前のように授業で大型テレビが使われておりました。算数でも使っております。三角定規の使い方などをこのように説明しております。これは先生ではありません、児童です。児童がタブレットを使って、自分の将来の夢を実現するためにどうしたらいいかというのを調べて大型テレビで発表しているところです。またこれは、2年生の児童が大型テレビに映し出された九九の問題を解いているところです。

さて、この場面、先ほど見たと思うのですが、実はここに1つギャップがありました。小学校にはこのようにテレビを活用した授業ができていました。でも、中学校ではテレビのない授業。やはり、どうしても聞く中心の授業になってしまいます。しかし、今年度、6月1日、大型テレビが導入され、テレビを活用した授業が可能となりました。早速活用していただいております。国語の授業や理科の授業に大型テレビが活用され始めました。

続いて、小・中学校に携帯端末機器の配置。今年度、各校に6台ずつ、i-Pod touch、これが配置されました。これはどういうものか、ちょっと簡単にご説明いたしますと、まず、大型テレビがございまして。携帯端末機器があります。インターネットに接続することによって、例えば、北海道と沖縄の違い、これを観光案内の動画で比較しましょうという、インターネット上の観光ビデオを見る。沖縄と北海道の実際の動画を見て北海道と沖縄の違いを実感する。このようなインターネット上の情報が見られるようになります。また、

デジタル教科書が見られる。撮影した動画が見られる。実際の実物を使えるので書画カメラ代りに使える。また、音楽ボックスとして使える。さまざまな使い方があります。

これは携帯端末機器の活用方法について、情報教育部会の先生が説明しているところです。この先生、見覚えはないですか。今、こちらにいらっしゃいます。せっかくいらっしゃっていますので、デモンストレーションをお願いしたいと思います。菊池先生、よろしくお願いいたします。

では、皆さん、拍手でお迎えください。

では、あちらのスクリーンを大型テレビだと思ってご覧いただきたいと思います。大型テレビを町役場に持ってくるのは難しいので、スクリーンを使ってご説明をさせていただきます。

○（菊池先生） では、改めまして、よろしくお願いいたします。中津第二小学校から参りました菊池と申します。

簡単ではありますが、短い時間でどんなことができるのかということをお皆さんに知っていただければと思っています。

今、手元に持っているのが、学校で使っているものとほぼ同じ端末、学校ですとインターネットができますので、この端末でもインターネットができます。今、何も映っていないのですが、こちらの端末で簡単にリンクをすることが可能で、今からしてみます。今、ここに映っている画面がこちらに、ワイヤレスで繋いでいます。動かしてみます。ということが可能です。それで、どういったことができるのかと言いますと、先ほどもありましたが、例えばカメラとして映し出すことが可能です。今、皆さんが映っているように、このまま移動しても映し出すことが可能です。また、どういった場面で使うかと言いますと、例えばこういうメモを挟んでいただいて、例えば教卓なんかに置くと、そのまま手元が映りますので、ここにプリントや何かを置いてあげる、もしくは糸と針をこうやって入れるんだよとか、あとは図形の問題ですと、例えば分度器ですとかコンパスとかといったものを手元の画面に映し出しながら、子供にわかりやすく映すということが可能です。

また、先ほどもありましたが、今までですと、どうしてもパソコンを持ってきて、パソコンをテレビに繋ぎ、そして準備をして子供を待たせ、その後でそこにあるデータを映し出すということが必要でした。今はもうそんなことが全く必要なく、例えば今出しているのがパワーポイント、今こちらに出ていますが、パワーポイントのデータをこの端末の中に入れることが可能です。少し時間がかかってしまうのですが、今まで接続したりとか、あとはクリ

ックしたりすることが必要だったわけなんです、この端末があれば、遠く離れたところから、子供たちを見ながら画面を見てねと言いながら、手元で操作をすることができます。ちょっと読み込んでいるのですが、これは以前使ったことのある鎌倉幕府の6年生のものですが、スライドを持ってきてみました。

例えばこんなふうに、この人知っているかなとか、今ここで動かしているのですが、遠く離れて子供のところで、鎌倉幕府はここだよとか言いながら、動きながら説明することができます。朝廷がいて、それが征夷大將軍に任命されたのだよとか。実は、この源頼朝、どこに幕府開いたか知っているとか、今の地図でここだよと言って、つくり出したこのスライドと、これはグーグルマップの画像ですが、実はここだよと言いながら、これは鎌倉幕府だよというようなことを、本来であればパソコンに繋がなければ見せることができなかつたようなことを、この小さな端末の中にデータが入っていますので、しかもこのデータは、同じ端末が6台来ていますので、ワイヤレスでエアドロップというのをを使うのですが、それを行うことが可能です。誰かがつくったものが、こんなふうにして全ての先生が簡単に使ってくださいということが可能です。ちなみに、鎌倉市はここだねとか、実はこの鎌倉幕府、ここにあったのだけどと言って、実は鎌倉幕府はすごくいいところがあって、どんなところがいいところだと思うとか話をすると、周りが山に囲まれているねとか、南側は海に囲まれているとか、そうすると、敵から攻め込まれにくいよねとか、視覚的にわかりやすいような説明もすることが可能です。

また、先ほどもありましたが、この端末の中に、その日使用する教科書のデータが入っています。例えば3年生だったら3年生の国語の教科書を見てみますと、すぐに教科書が出て大きくすることも可能で、ここを見てという感じですね。これはもちろん書画カメラだけではなく、こんなふうに、ここを見てねというような、電子黒板としても使用することができます。キツツキの生涯というところですね。キツツキ見たことあるとかということを見聞に投げかけて、これはインターネットに繋がっていますから、キツツキを調べてみようかという感じですね。例えばこれで、「キツツキ」——キツツキ出ました。そうすると、インターネットの中でこれがキツツキという鳥だねとか、こういう感じですね。これがキツツキだよと、大きくすることも可能です。背中が少し黒いというふうに、インターネットも使うことができます。

また、私が前任校、中津小学校というところにいたのですが、外国籍で、なかなか日本語が話せない児童が多かったです。特にポルトガル語、スペイン語を話す児童は英語も伝わら

ないような状況で、どうしたかという、このグーグル翻訳を使いました。例えば、席に座ることができない児童に、「席に座ってください」——そうすると、「Por favor, sentado no banco」、これでわかってくれるというようなことがありました。

あとは音楽も、先ほどありましたが、音楽の授業はCDを使わないでこのまま……とかというようにすることが可能です。そのほかにも、本当にやり方に応じていろいろなことができるので、その先生によって工夫していただきながら、アプリを使ったりですとか、データをこちらに入れていただいたり、また共有したりということで、子供たちの学力を、さらにわかりやすく、視覚的に伝わりやすくということが可能になるのではないかなということを感じております。

ありがとうございます。

- （佐野指導室長兼教育開発センター所長） 菊池先生におかれましては、学期末の成績処理がございましたので、ここで退室とさせていただきます。

では、画面のほうに戻ってきたいと思います。

続きまして、地域との連携です。地域との連携につきましては、この部分になります。今年度につきましては、愛川東中学校区が町の研究指定ということで、コミュニティスクールを研究していただいております。コミュニティスクールとは何か、簡単に言いますと、学校と地域が一緒になって学校運営協議会というものを立ち上げます。ここで学校運営に関するさまざまなことを話し合ったり、学校の課題を一緒に解決するために話し合ったりする場です。例えば、「裏庭をきれいにしたいのですが」と先生が言うと、「花を植えましょう」と、「植木屋さんに木を切ってもらおう」、「ボランティアを頼むよ」なんていうふうに地域の方にご協力いただく。こういった形をとっていくと、徐々に教育活動が充実し、地域が活性化していくというものです。まだ研究を始めたばかりですが、中津小学校では7月7日、その学校運営協議会を開きまして、運営方針等について説明をしたところです。また、学園のランドデザイン。学園という言葉をあえて使っておりますが、中学校1校、小学校2校を1つの学園として捉えた場合、どんなランドデザインができるかなというところで、今、各中学校区で作成していただいております。これが東中学校区のランドデザインの一部です。また、学園広報リーフレット作成による保護者、住民への周知。これは、他市町村のものですけれども、こういったリーフレットを年度末に作成し、来年早々には保護者、地域の方々に配布をしたいと考えております。

では、最後になります。小中一貫教育の成果と課題、そしてこれからの展望です。これに

つきましては、先だって、小学校の運動会に中学生がボランティアに来てくれました。その様子の写真とともにご覧いただきたいと思います。

ということで、現在、9校で、それぞれの課題を持ちながら、なおかつ小中一貫教育も取り組んでいるところです。間違いなく子供たちがどんどん成長して、学力も伸びていくのではないかと期待しているところです。全てはこの矢印の流れに沿って、今後も進めてまいりたいと思います。

ご清聴、ありがとうございました。

○（小野澤議長） どうもありがとうございました。

今、テレビなどいろいろ拝見をさせていただきましたけれども、教育の方法も変わってきたなど、時代も随分早く、スピード感を持って動いているなということをつくづく感じました。

それから、先生のほうからビデオやテレビ、広報などを拝見させていただいて、町の小中一貫教育、この内容についてご紹介をしていただきました。今日の議題の中では、なぜ小中一貫教育を行うのかと、そして小中一貫教育の取り組み、さらには小中一貫教育の成果と課題、そしてこれからの展望ということで、次第のほうにもお示しをさせていただいておりますけれども、これから委員の皆さん方と忌憚のない意見交換に移らせていただきたいと思います。これから、皆さんの意見の交換をお願いしたいと思います。よろしく願いをいたします。

今、学園という話が出てきたけれども、あれは将来的には、今、愛川中学校区として愛川中学校、その下に小学校が半原と田代、これが1つのグループというふうになっているわけでしょう。それで、これを今度、学園として捉えると。

○（佐野指導室長兼教育開発センター所長） 学園という見立て、考え方で、1つのものというふうに考えておまして、名前まで変更するということまではまだいっておりません。ただ、全国各地には学園と名前をつけて、1つの学園とやっているところもありますが、町についてはそこまで、最終的な結論は出しておりません。あくまでも考え方です。

○（小野澤議長） その辺もよく、親御さんもそうだし、主人公の子供さんもそうだし、理解していかないと、わからなくなってしまう。小中一貫教育、この辺について、親御さんなんかは理解しているのか。その辺もしっかり周知をしていかないと。

○（佐藤教育長） 今のお話の中で、周知はいろんな機会各学校も、保護者会などを通してお話をしていただいております。実際には、これから作成するリーフレットあたりが一番全

貌がわかっていいのかなというふうに思っていますけれども、今、各3中学校区、それぞれ中学校区での小中一貫教育を進めているわけですのでございますけれども、全て建物が1つではないので、義務教育学校という言い方をしていませんけれども、それとは違った形で、愛川町がやっているのは併設型の小中一貫教育ということで取り組んでいるところであります。

中学校区で1つになるというのはすごく大事なことだと思います。今、映像でもありましたけれども、それぞれの中学校、小学校の子供たちが交流していますので、そういう中で一体となって取り組んでいくということであれば、将来的に何々学園とか、学園じゃなくても1つの名前をつかって、そこに小・中が所属するような、そんなイメージというのがわかりやすいのかなということで、検討している段階でございます。

以上です。

- （小野澤議長） 今、小学校は6年でしょう、中学校は3年。全体では9年、これは変わらないけれども、今度その辺は、将来的には何か。6年と3年という形は持たないのか。
- （佐藤教育長） 持ちます、それは変わりません。6・3は変わらずに、9年間を経てやっていこうと考えております。
- （小野澤議長） その辺は大丈夫か。
- （佐藤教育長） 他市町村では、例えば4・3・2とか、そういう形で分けてやっているところもあるんですけども、本町の場合では、6・3という形の中で、指導上の件で分けるということはあると思いますけれども、例えば小学校の低学年は学級担任制、中学年になったら、例えば小学校5年、6年、中1あたりは教科担任制に移行していくとかを含めて、それで中学校は教科担任制ですから、そういう指導上の形で分けるということは、1つの方法としては考えています。
- （梅澤委員） いいですか。
- （小野澤議長） どうぞ。
- （梅澤委員） 今の話題に関連して、学習指導要領をここで新しく、小学校、中学校で出されたのですが、多くの教科が2学年ずつ分けているのです。例えば、体育とか芸術系教科なんかは中学1、2年生で切って、中3、高1でまた1カテゴリをつくっているのですね。ところが、中学を卒業すると急に義務教育じゃなくなるので、そこまで我々がなかなか立ち入ることができなくて、日本だと98%以上が高校に進学する状況があるので、いわゆる4・4・4制であるとか、別の考え方が生まれたりもしやすいのですが、残念ながら高校のカテゴリまで含めての教育課程の再編成は難しい関係上、どうしてもなかなか学習指導要領上で

いくと、4・4・1みたいな切り方になっちゃっている。中3だけちょっと苦しくなってしまうような切り方になってしまうので、既存の6・3を残しながら、その中でどのように融和していくかが重要なと個人的には考えています。

以上です。

○（榮利委員） 先ほど例に出た三鷹中央学園というのは、愛川町と大体規模が似ているんですね、2つの小学校と1つの中学校で。その中央学園という中には学園長さんがいて、副学園長さん、されはもちろん所属している小学校の校長先生とか、そういう方がなっているんですね。それで、学園として小中一貫教育の中で分担をきちっと決めて、子供たちの将来に向けてどういうことをやっているかというのをグループで、その学園の組織の中でまたきちっと見ていこうというやり方をしているんですね。そこはやっぱりきちんとできて、平成24年に学園をつくったと言っていますから、結構時がたっているんですね。だから、非常に参考にはなると私は思っていますけれども。

○（小野澤議長） 戦後70年以上経てば、昔、義務教育は小学校だけだと。それで、GHQが中学校を足したわけですので、それで、今の国のほうでも、もう七十数年たっているから、その辺の制度をよく見直していこうよということで、今、進んでいるわけでしょう。

○（佐藤教育長） やっぱり小中一貫教育を愛川町に推進するという1つの目的が、先ほどの中1ギャップ、不登校等のいじめとか、それを減らすという面も、これはもちろんあるんですけども、学力の向上という意味でもすごく効果があるのではないかなというふうに思います。やはり先生方が9年間を見越した、例えば教育課程の編成という、先ほど言葉が出ていましたけれども、中学校の先生が小学校の教育課程を知り、小学校の先生も中学校の教育課程を知っていく、どこで何を教えているのかというのを共通理解しながら、そして最終的に、愛川町では、英語だったら英語の教育を1年から9年間、どういうふうに教えながら育てていこうとかかというようなことが、一貫してくるといえるのは、すごく学力向上に大きな効果をもたらすのではないかなと。それに、さらに、そういうことを通して質の高い教育にどんどん広がっていくというところが、小中一貫教育の大きな目的ではないかなというふうに思っています。

1年とちょっとですけれども、確かに愛川町は連携というのをやっていたので、一貫にすごく入りやすかったというのがあるんですね。私は自分が所属していた学校、以前所属していた学校は小中一貫教育をやっておりまして、やはり不登校が激減しました。やはりそういう小学校、中学校の繋がりというのは、すごく大きな効果があるんだと思います。去年か

らスタートをしましたが、本来でしたら先行研究をしなければいけないんでしょうけれども、これはもういろんな自治体を見ても成果が十分あるということがわかっていたので、愛川町も進めることとしました。

○（梅澤委員） よろしいですか。三鷹の先生とお話ししたときに名詞をいただいて、〇〇学園校長とか副校長と書いてあって、やっぱり私も最初はすごく違和感がありました。なぜ、こういう名前にしているのかというと、やっぱり我々意識を高める、これがやっぱり一番かなと思いますね。いわゆる愛中学区と言われても、やっぱり半原小学校、田代小学校と分かれてしまうと、ばらばらのものが何か外部によって組み合わせただけなんだけれども、もう同じ学園というふうになってしまうと、例えば、A学園のたまたま半原校みたいな形、分校みたいな扱いで、私たちは同じもの、1つの中でたまたま分かれているだけという意識が、数年やっていると、やっぱりついてきますね。やっぱり同じユニフォームを着ていると我々意識が高まりますし、同じ校名で動いていると、そういう意識が高まりますねというのを聞いて、なるほどなど。形から入る、簡単でわかりやすい成果だなと思いながら聞いていました。

誰もしゃべらないのでしゃべりますけれども、いろんな成果があると思うんです。恐らくネガティブなスタートなんです。やっぱり中1ギャップを解消するためにどうしたらいいかが、やっぱり最初のスタートだったかなと思います。しかしながら、先ほど室長からのプレゼンテーションにあったとおり、それ以上のプラスは、先ほどの教育長の学力の話であるとか、それ以上のプラスがあるかなというふうに、見ながら思っていました。途中のスライドで、中学校の先生の専門的な授業がある。私からすると、教科専門、教科内容の専門性が高いのは中学校の先生。でも、小学校の教育研究、実践研究みたいなものというのは、もう数十年、世界から注目されているので、小学校の先生の場合は教育方法専門、教育の仕方をやっぱりずっと長く、全員がほとんど同じ教科をやりますので、国語を研究する人みんなです。なので、そういう教育方法の専門性はやっぱり小学生が高いかなと。その辺がうまく融和していて、非常にすばらしいなと思います。

最初のころ、私も小学校の教員をしていたので、最初のころは小学校の研究会に行くと、私、この教科のことはわかりませんという中学校の先生、つまり中学校の内部で、ほかの教科のことはわかりませんと、その中に実は壁があったり。あるいは、小学校の授業を見に来られた中学校の先生が、同じように私はこの教科を教えたことがないのでわかりませんというスタンスなのですね。でも、小学校の先生は、いや、私たちの専門性は高くないだけけれ

ども、いろいろそういうのをお互いに学び合っていますと。学校の先生は、今までは教える専門家だったんですけれども、やっぱり今は学ぶ専門家になっている。つまり先生が、先ほどの菊池先生のように新しいものを取り入れて、それを子供たちにいかに気づかせるようにしていくかと。学ぶのは子供なので、そのための学びの専門家として、先生方がそうだという。それが、いわゆる評価内容の専門的な方たちと、方法的なもので長く親しんできた方たちが融合している姿はすごくいいなと思いながらスライドを拝見いたしました。素晴らしい小中の一貫のステートメントだなと思って拝見していました。

- （榮利委員） 私も、藤岡市の小野小学校へ行ったときに、中学の理科の先生が小学生に理科を教えていたんですね。あと、千葉の先進地の視察へ行ったときも、小学校で大型テレビをものすごく活用して、今、先生が説明されたようなことを、タブレットは使っていませんけれども、やっぱりどんどんやっているんですね。それで、子供はやっぱりそういうITに対して興味もあるし、親もまたそういう教育を9割以上がやらせてほしいという話をしているんですね。ですから、今まで学校訪問で小学校へ行くと、大型テレビで結構使って映し出したり、説明したりやっていたんですけれども、今度、中学校に入ったので、これはもう飛躍的に、学力が少し飛躍的に上がってくるんじゃないかなと。興味を持つということは、やっぱりそれに集中してくるので、そういう面では今までやってきた連携をさらに深めて、この小中一貫というのを少しずつですけれども、進めていけば、非常に物になると思います。私はそう思っているんですけれども。

- （大貫教育委員） ギャップの壁を低くしてやるとか、いろいろ目的はありますけれども、現場にいたときに、小中一貫教育の前は小中連携教育とかいう名前でやっていましたけれども、そのときに先生方に、管理職、あるいは指導主事の先生方が、どういうあり方で、例えば今回の話し合いを進めているのかなという、その視点の一つの題材として、こういう提供をしたことがあるんですよ。小学校の授業を見させてもらうと、小学校の先生は黒板の字がとても丁寧できれいだ。私は中学校でしたから、中学校の教員はお恥ずかしながら、自分も含めて雑で、もうミミズがのたくったような字を書いて、平気です。ここから始めて、やっぱり一番の取っかかりで、ちょっと言葉は悪いけれども、ほれ見ろ、小学校の先生は字を丁寧できれいに書いているじゃないか、私たち中学校の先生は何をやったんだというような問いかけから、まず、小中連携教育のもっと前の段階での話し合いの内容、要するに、単に授業を見に行き、それで授業のやり方が上手い下手だの以前の問題、そこら辺を話題にしたほうが、本当の小中一貫で、子供に何かを教えることの話合いの

材料になるよと。

例えば、さっきのスライド、今は言わないですからね、あれは。もっと昔は幻灯と言っていたんですからね。下にコメントが出ましたよね、先生方のコメントが。でも、あれも実はやっぱり、ああいうところへ出るコメントだから、やっぱりよそ行きコメントでしょう。だから、本当に自分を見つめている、さっきの話に戻るけれども、自分の字は下手だよな、だけれども、それを隠しているよな、今、ワープロなので。だから、あえて現場では、最近では、字で書いた文書を出してくださいと、逆に言っているぐらいなんですよね。その辺まで下がって、つまり今 i P o d でいろんなのをやるという、高きを目指す教育で一貫教育をやっているという、それももちろん当然です、今の時流に。でも、教育の根本的にやる部分をもっと共通認識できないだろうかというようなところも、今回の目指すところの一つにしておいたほうがいいのかなと思いました。

もう一つは、きょうは保護者とか熱心な方もいらっしゃると思いますが、やっぱり大人は、私も実は人のことは言えませんが、自分の子供が小学校だとか中学校だとかのときには、これは当然教育に関心がありますよ。1つ例を出すと、部活動なんかそうですね、チームのコーチをやりたい、大会に行かせてもらいたい。もう土曜日、日曜日は応援に行きます、大変ありがたいです。場合によってはお茶なんか持ってきてくれたりして、それはすごくいいんですけれども、ところが、もう子供が成人しちゃう。そうすると、だんだん関心が薄れてくる。地域の社会教育で活躍してくださっているような大人の方々は、当然、子育てという意味でずっと携わっていただいていますけれども、一般の保護者の方はだんだんだんだんと意識が薄れてきちゃって、こういうことがあったんですね。

私、地元でいろいろな役員をずっとやらせてもらっていて、それで夏休み、このとき何々の役があるんだけど、私、洋というのですけれども、洋さん、出られるって。いや、学校で、大会の引率か何かがあるので出られないんだよと、なんだよ、洋さん夏休みになって暇だろうと。これはちょっと極端な例ですけど、つまり何が言いたいのかというと、大人もやっぱり小・中の段階を自分の子供たちが越えちゃっても、関心、興味が向けられるような小中一貫教育みたいなのを情報発信する。もちろん教育委員会がやります、それからもちろん、行政のほうもやりますけれども、学校側も、そういったようなところの視点でもって、一生懸命動いていただく。この辺も、今回の小中一貫教育のあり方の一番基本中の基本じゃないのかなと。

だから、格好良く言えば、生涯学習までずっとつなげられるような、窓口は小中一貫教育

だけれども、実は保護者や地域の人とともに推進していく小中一貫教育、ずっといつまでも教育というのはやっぱり必要なんですよ、生涯にわたって学んでいくものですよというような、そういうふうなところで宣伝しているというか、情報を発信していくようなのを、この一貫教育をもとにしてやっていけば、町のいわゆる教育行政というのが、これはもうすごくいいものになっていくと。

そういう意味で、例えば、これは県教委の関係ですけれども、愛川高校さんとの町の連携というのは、これはもう典型的な成功例ですよ。こういったようなもので、もういい例がありますから、先ほどから学園構想みたいな話が出ていますけれども、もしやれるものであれば、そこまで進めていければいいのかなというふうに思いました。

もう一つ、さっき字が汚い、きれいだの話をしましたけれども、以前にこういうような話をしました、先生方に。私は小学校も経験しましたので、小学校も、そのときこんな小さい1年生が、もちろん6年生もいますけれども、この1年生から6年生まで、例えば運動会でマスゲームを教えるわけですよ。この教えるのに要する時間の多さと苦労さというのは、実は中学校の先生はわかっていない。それがあるから、中学校に来て、例えばの話、組み体操であるとか、女子であればすばらしいダンスであるとかということをやれるんですよ。間違っている、ちょっと考え方が違うような先生は、よく言うことを聞かないで、やらないやつなんか、個別に厳しく指導して、それは違うだろうと。小学校の先生方の積み重ねで、自分たちはある意味、楽をしているとは言いませんけれども、その積み重ねの上でさらに高いものができているんだという認識でいないといけないよというようなことを話したわけです。

だから、スライドでもありましたように、職員が小学校と中学校を入れかえてやるというのは、その先生が現場に行って、その小学校のいいところを中学校へ、中学校のいいところを小学校へ持って帰って帰って言わないことには、やっぱり話は進みませんね。行って授業をやって帰ってきて、中学校の先生は優しくていいねなんか言って、それでお終いじゃしようがないので、そこまでやっぱり突き詰めた報告みたいなものも、教育のあり方かなというようなことで、実際に小・中に携わってつくづく、連絡会などもやっぱりしゃべったことです、余計なことをお話ししましたが、以上です。

- （小野澤議長） 現場に携わった人はやっぱり経験豊富だから。
- （平田委員長職務代理者） 今、大貫委員さんがおっしゃったことで、私もアナログの一人なので、いろんな端末の機器がどうたらこうたらなんて、ついていくのが精一杯なんですけれども、ちょうど教育長が、教育長になられたばかりのときに、やはり現場に慣れるのが大

変だったということを言っていたことを思い出しまして、軌道に乗るまで、やはりこれは大変なことだと思うんですね、いろんな意味で。だから、その軌道に乗ってしまえば、やはりその軌道に乗ったことを保護者にちゃんと説明したり、今これから、みんなとてもいい方向に行っているんだよという安心の意味での発信ということができると思うんですけども、こういう不安を抱えていて、ちょっとこれって大丈夫なのかななんて思ってしまくと、えらいそれが歯止めとなってよくない方向に行きますので、先ほどのスライドはかなりわかりやすく、アナログの私でも拝見していてわかりましたので、あの中で、中高一貫で、よく小学校の連合運動会の際に、あれは駅伝ですか、何かとにかく高校生がすごく来てくださって、愛川高校のメンバーのお手伝いで。ああいう流れは、すごく見ていていい形ですし、保護者の人とも接触できますし、今回の小・中学校も、この間の運動会で、菅原小の運動会で早目にもう中学生が来ていてくれたんですよ。ああいうのを見るとやはり、どうして用があるのと思ったんですが、もう動いているんだなということで認識いたしまして、そういう意味じゃ、やはり現場というのは、もうやっていく中で覚えていく、子供たちも。我々というのは頭で、文字で言われているから、ちょっと時間をかけながら、ああ、なるほどとなるんですけども、先生たちとか、例えばご家族が、やはり動かしているものですから、如実に良い、悪いがはっきりわかりながらの指示を出していただいたなって、私、そのように受けとめました。すごくいい形で、リズムよくやることが、一番成果として挙げられると思います。

- （小野澤議長） カリキュラム等いろいろ検討しているの。
- （佐藤教育長） 新学習指導要領のスタートが32年です。それで、中学校が33年ということで、今お話の中で、教育課程を見据えというお話がちょっとありましたけれども、やはり、新学習指導要領がスタートするので、今でも、現状のカリキュラムでも当然やっていますけれども、それをもとにして新しい学習指導要領を調整しながら、32年度から9年間を見越した形の教育課程で進めていこうということで、今準備をしている段階です。

先ほどから、多分、混乱される部分があるんじゃないかと思うのですが、連携と一貫の大きな違いというのは、愛川町での小中一貫教育には考え方がありまして、1点目は、9年間を見越した教育課程の編成、これがまず1つ。それから、指導方法の共有、これが2つ目。特に授業の中での指導方法の共有化、3つ目が小・中学生の交流。これは先ほどスライドがありましたけれども、いろんなところで交流をする。4つ目が教員の連携を今後、どう愛川町の小中一貫教育で進めていくかということが、多分、課題になってくるんだろうというふ

うに思っています。平田委員さんが先ほど言われた愛川高校との中高一貫教育も進めているわけですが、昨年度は連合運動会に20名ぐらいの愛川高校の生徒さんに来ていただきました。今日も大沢校長さん、来ていただいています。愛川町は今小中一貫、そして中高一貫、それぞれ一貫教育を進めている状況でございますので、今後それぞれの一貫を充実させていくことが、愛川町の教育を充実させていくことにつながるのではないかなと思っています。

以上です。

○（小野澤議長） 今日は大沢校長先生がおられますけれども、いろいろ今、コミュニティスクールとして愛川高校も指定を受けておられますので、先だっても大沢校長と話をしたんですけれども、地域貢献の部分で、また新年度は会議の中に何か時間的に入れてもらえれば助かるなということで、町のほうからはいろいろと校長先生にお願いをしています。だから、またこれからいろいろ調整をさせていただいて、できる限り協力をさせてもらいたいなと、そんなふうに思っております。

○（佐藤教育長） 今、町長さんのコミュニティスクールの話ありましたけれども、先ほどの大貫委員さんのお話もそうなんです。小中一貫教育で、今、愛川東中学校区でコミュニティスクールの町の指定研究をしているわけですが、小中一貫教育を充実させていくためには、やはりコミュニティスクールを推進していくのが一番効果があるというのは、先ほどのスライドにもありました貝ノ瀬先生が講演の中でおっしゃられていて、貝ノ瀬先生は三鷹市の小中一貫教育を推進されて、そのときにコミュニティスクールも一緒にやられていたということで、去年助言をいただいて、愛川町でもぜひコミュニティスクールを推進したらいいだろうということで今回やっているのですが、やはり小中一貫の窓口で、それによって地域の方が学校に入り教育し、それによって地域の方が、町民が元気になっていただける、要するに活性化していくという、本当にそういうところまで進めていくことが、小中一貫を通した何か大きな意義なのかなというふうに、町長さんがいつも言われているように、元気な町づくりというお話もあると思うんですけれども、そういうのがやっぱり広がっていくいいなと思っています。

今、各中学校でも、地域に子供たちのお祭りとかいろんなところで出していて、社会性を身につけようということで、今、努力をしていただいているところもあるんですね。ですから、町全体がそういう意味で活性化していくといいなというのが、今の思いであります。

以上です。

- （小野澤議長） 中原中学校で、私の特別授業をさせてもらったんですけども、そこで中村校長先生と話をしていたら、今、地域貢献のあれで、元気、根気、やる気、本気カード、中原中学校。
- （榮利委員） ボランティアのあれで。
- （小野澤議長） そう。それで、後ろを見ると、ごみ拾いキャンペーンに参加したとか、夏祭りにお手伝いに行ったとか、いろいろ地域の行事なんかにも参加をしましたというようなときに、ポイントをもらえる。それで、地域の人にポイントを何かつけてもらうみたいですけども、それで年度末に校長先生のほうから何か出すという話ですけども、これも一つの取り組みとしてはすばらしいんじゃないかなと私は思っております。これは、何、中原中だけですか。
- （佐藤教育長） そうです。カードをつくっているのは中原中だけです。ただ、ほかの愛川中も愛川東中学校も、どんどん地域には呼びかけ出しておりますね。だから、町全体が地域にとにかく参加、出ようという動きがあります。
- 例えば愛川町では教育基本目標の中に、「和・徳・体・知」の「和」がありますので、社会性を身につけるといって和を一番最初に持ってきていますが、各学校でも努力をいただいています。
- （榮利委員） 1つよろしいですか。ちょっと町長とやりとりしないと、何か総合教育会議という感じが余りないので、率直なところをちょっとお聞かせ願いたいんですけども、小学生に対してはランチミーティングとか、中学生に対しては歴史講座だったり、いろんなことで学校へ行っていますよね、あと入学式とか卒業式とか。今年の成人式はすごく静かに終わったんですけども、率直なところ、今の小学校の児童、それから中学校の生徒に対して、どうですか。先ほどのスライドにあったような中1ギャップとか、率直な感じをお聞かせ願いたいんですけども。
- （小野澤議長） 各小・中学校の行事にそれぞれ出ささせていただいて、今お話ありましたように成人式で毎年挨拶をするけれども、だんだん子供たち、おとなしくなっているのかな。昔の子供のほうが元気があったよね。中には目立ちたがり屋という、そういう子供さんもいたけれども、でも、なかなか今は、だんだんとおとなしい子供さんになって来ている。それが良いのか悪いのかは置いといて、そんな感じはしました。だから、中1ギャップというのはそれほど感じていませんけれども。だから、言いかえれば、もうちょっと元気になってもいいんじゃないかなと。

- （榮利委員） 率直なところはそうですかね、やっぱり。もう少し元気が欲しい。
- （小野澤議長） だから、校長先生とも話したけれども、特別授業ここで行った去年の2年生と全然違う、反応が返ってくる。そういう意味で、今回そんなに返ってこなかった。一生懸命こういうふうに聞いているんだけど、話を。でも、返ってくるのはそんなになかった。去年のほうが、それは積極的で元気があった。それで、それを校長先生に言ったら、校長先生がやっぱり、年々おとなしくなっているねという感じは。わんぱくでもいいんじゃないかなど。
- （榮利委員） あんまりわんぱくでも困るけれどもね。
- （小野澤議長） 実際、中1ギャップというのはあるのかな。
- （佐藤教育長） 中1ギャップですか。
- （小野澤議長） 逆に私のほうから聞きたい。
- （佐藤教育長） 中1ギャップというのは、もう昔から言われていることで、やはり先ほども話がありましたけれども、小学校の文化と中学校の文化はかなり違いがあるんですね。そういう中で、成績にしても、例えば中学校に、今は余り順位に出さないですが、意外と自分がどのくらいにいるかというのが歴然としてくるんですね。ですから、結局、二極化が始まってくる。勉強のわかる子とわからない子で、差が出てくるという状況もございますし、そういう中で、やっぱり子供たちが不登校になっていったりとか、また複数の学校で来ますから、そこで人間関係でつまずいて、そこでいじめが発生したりというようなことがどうしてもあるものですから、やはりそういうのをどうして解決していったらいいのかというところで、多分この小中連携、小中一貫教育というのが全国的にも言われているんだろうと。実際にやってみて減ってきていますから、効果があるということは確かだと思います。

ですから、いかに質を高めていくか、やり方を考えていくか、工夫していくかということが、多分、今求められているもので、本町でも、去年からスタートした小中一貫教育をさらに深めるために、県の指定をあえて受けました。そして、人、加配の部分とかいうことで、今、小学校に兼務発令をかけて、小学校に行って英語の授業をしていただいたり、東中も、教科は違いますが、4名の職員を兼務発令かけました。中原もかけて、合計8名の中学校の先生を小学校との兼務発令をかけました。ですから、両方とも所属していることになりますね。それで授業をやっているということで、それが今後どういう成果が出るかということもしっかり見ながら、進めていきたいなというふうに思っています。

ただ、これを進めるとお金が、進めれば進めるほどお金がかかってしまうものですから、

中学校の先生が小学校に行くということは、そこで中学校の授業があいてしまうわけですね。ですから、1人のコマがどんどん増えていってしまうんです。

- （小野澤議長） それは町単独でやってるの。
- （佐藤教育長） 基本的には県は見ていただけませんので、小中一貫教育をするからといって、1人加配がつくわけじゃないんですね。ただ、今、研究で受けていますから、予算をいただいで加配ができていくという状況ですので、今後、町長さんと相談していきたい。今現状としては、本当に東中も中原中も加配なんかないですから、自分たちが都合をつけてやりましょうということで、積極的に取り組んでいただいていますので、すごくそういう面ではありがたいと思っています。
- （梅澤教育委員） 今の教員の連携もすごくやっぱり大事なことだなと思います。加えて、先ほどスライドにあった生徒と児童の直接的な連携、やっぱりすごく大事なと思いながら拝見をしておりました。先ほどの情報モラル教育で、中学生が小学生にそれを教えに行くと。恐らく一番学んでいるのは小学生じゃなくて、教えている彼ら、彼女たちだなと私は思います。こういうことをやったら、こんなリスクがあるんだよ、こんなマイナスがあるんだよ、こんな怖いことがあるんだよって、多分、調べて、それを子供たち、小さい子に話している。その子供たちは、よりそういうリスクに対して慎重に、情報に対して丁寧に対応していく子供たちに育っていったらいいんだらうかと推察をしています。つまり子供たち同士のこういう一貫教育のあり方もやっぱり、それこそ連携を考えながら、恐らく総合的な学習の時間で、移動も含め、彼らの小学校に行き、こういうことを表現、発表してくることが学びであるということ。中学校の先生方がしっかりご理解された上で、安全・安心の確保の中で、そういう子供たちの連携も深めていくこと、それはやっぱりすごく大事ななと思います。

先ほど、平田委員の話まで戻ってしまうんですが、平田委員の話はすごくよかったと思うのが、やっていく中で覚えていく、これはやっぱりすごく大事なと思いながら聞いていました。先ほど最後のスライド、何か感動的な音楽が流れて、いいなと思いながら聞いていたんですが、やっぱり課題もありましたよね。先生方のやるべきことが多くて、なかなかこれに時間がかけられない。恐らくマニュアルをつくったり、そのマニュアルを読んだり、何か正直、残さなきゃいけないって、あれは書いてからやらなきゃいけないとなると、かなり大変だなというふうに思われます。

今、非常に重要となっている教育方法に認知的徒弟制度、いわゆる技を弟子たちが何となく見て学んでいくみたいな、そういう方法ですね。もっと言うと、i P h o n e、

i P o d t o u c h、説明書がどのぐらい分厚いかと思いきや、ご存じですよ、箱をあけて何にも書いていない、ペラの1枚があるだけなんです。昔のガラケー、日本の企業がつくるガラケーはこんな分厚い、本体の3倍ぐらいあるような、こういう説明書があつて、あれは日本人がつくったやり方。でも、アメリカの人たちは開いて、何かよくわからないけれどもボタンがあつて、そのボタンをさわったら画面があらわれて、画面があらわれたら何か矢印があるから、その矢印を3歳の子がさわったら画面がぱっと開いていく。i P a dを作成した彼らのチームは、3歳の子たちが何も読まないでもできるようにするためにはどうしたらいいか、そういうものの工夫をすることによって、よりわかりやすく情報を伝えることができる。

そういったものが、例えばこういうやり方をするといいですよよりも、実際その先生の授業を見に行つて、先ほど菊池先生の授業を見て、ああ、いいなと思ひながら、私もわからない言葉は、よくグーグルの翻訳を使いますが、やっぱりあれはリアルでいいですよ。何ならば、それを子供たちが使つたっていいわけですよ。子供たちだと恐らくポルトガル語を聞きながら、いつの間にかできるようになっていると思う。これは日本の子供たちも、向こうの子供たちも。それで、もう本当にわからない、初めて日本でi P a dを受け入れるような国の子が来た際に、そういうものも、全てそういうツールでわかることが可能なわけで、彼らがそういう情報ツールを使いながら、時代がどう変わっても対応し得るような、そういうまさに力を育てていく。先ほども話があつた生涯学習につなげていくような、その学び方を学んでいくような、そんなあり方があると、すごく素晴らしいなと思ひながら。

これは小中一貫だけに限らず、そういう多分いいすべを持っておられる先生はたくさんいらっしゃると思うんです。その方たちのすべをまさに皆さんで楽しみながら学び合つていく姿勢、先生方が学び合つていく姿勢があるといいなというふうに思ひながら拝見してました。

ちなみに、先週の火曜日、AKBというのに参加してまいりました。私、オタクのあれに行つたわけじゃなくて、愛川教員勉強会という自主学習会があるんです。素晴らしい組織だなと思ひました。5時半ぐらいに、各学校の勤務が終わってから先生方が集まつて、自分たちでテーマを掲げて、自分たちで学び合つている。いや、素晴らしいなと思ひながら見てました。何がよかったかという、先生方が楽しみながら学んでいた。何かやらされ感がゼロで、楽しみながら学んでいく。その中の先達的な先生が、こうやるといいですよ、こうやるといいですよ、まさに主体的に、対話的に学ぶようなデザインがその場でなされてい

て、先生方が楽しみながら学び、その先達のあり方を、その姿を、背中を見ながら学んでいく姿は非常にいいかと、ぜひ、そういうものがさらに広がっていくことを願っています。

以上です。

○（小野澤議長） いいお話をありがとうございました。

どうぞ。

○（平田委員長職務代理者） 今、梅澤委員から、教職員がすごく楽しくやっていたらという話を聞いたので、やっぱり質問する内容が、真逆のことを質問しちゃうと申しわけないかもしれないんですけども、時間がない中で、この先生たちが思っていたらという話だけでも、ここで学校現場では、平成32年と33年に向けて、学習指導要領が全面変わってくるということになっているんですけども、その取り組みの中での一貫教育で、時間割ですよね。ですけども、今、楽しくやっていたらという話を聞いたので、その心配はないのかしら、逆に。大変な教務の中での動きですから、そういう意味では逆にこれは教育長にお尋ねしていいでしょうか。教職員の時間帯がなかなかとれない、大変ですということをよく聞きますよね。そういう中での一貫教育のあり方はどうでしょうか、お願いいたします。

○（佐藤教育長） 32年、33年と新しい教育課程の中で、特に小学校が3、4年生に英語活動が入り、5、6年生が英語科ということで教科になりますよね。そうすると、3年、4年、そして5年、6年と1コマずつ1週間に時間がふえるという状況になりますから、そういうことを考えると、教員がふえるわけでもないし、ただ授業のコマがふえ、そしてそれに合わせてそれぞれの市町村で独自のいろんな、本町で言えば、小中一貫教育ということでやっていくわけですから、そういう面では、多分スタートは大変ではないかなと。そのために移行として、30年、31年で、少しずつ授業の時間をふやしていくというような形を今とっていく予定ではいるんですけども、物理的にいったら大変になると思います。ただ、その教育をどう効率化させて、先生方が少しでも時間を効率的に使えるような、そして教育効果が高まるとなると、やはりそれがやりがいになり、モチベーションにつながると。

今、梅澤委員さんが言われたAKB、この前の会合は40人ぐらい教員が集まったと聞いております。すごくすばらしいかと、私も、そこまで自主的に教員が集まって自由研究をしている市町村も余りないんじゃないかなというふうに思っています。小学校の教頭先生方が中心になって、実はこれをリードしているということで、小学校の学力とか、多分上がっていくのではないかなと。それが今度中学校に来て、さらに授業方法のそういうものを学びなが

ら、中学校の教育力も上がっていくと、総体的に考えると、愛川町の子供たちがよい環境の中で成長できるのではないかなというふうに思っています。やはりモチベーションが大事なんじゃないかなというのが私の感想です。

以上です。

- （梅澤委員） 重ねてよろしいですか。おっしゃるとおりで、同じだけ働いても、充実感につながる場合と、多忙感だったり徒労感であったりにつながる場合とやっぱりあると思うので、これは教育長おっしゃるとおりで、やっぱりそこに没頭できたかどうかはすごく大事なと思うので、やっぱり夢中になっていることって時間を忘れて頑張り続けられますし、そういう関係の、そういう夢中になれるような成果をお互いに認め合えるような、そういう職場だといいなというふうに思っています。

意味と意義というんですけれども、意味は没頭、夢中になれるかどうか。意義は本人が、その価値を感じているかどうか。とかく指導主事の先生方をお願いしますんですけれども、あんまり上からいろんなものを振らせないでくれと。つい何かあると、学校現場で議会对応だの、こういう調査をしてくれ、結果的に子供のためにならない場合の調査とか、そういうことが多いと思うんです。これはやっぱりあんまりいいことじゃないですね。やっぱり子供たちのためには時間を割きたいと思ったから先生になっている。データを見たりするために先生になりたいと思っている方は、多分、皆無に等しいんじゃないかなと思います。

だから、本当に今町のほうでは、少ない指導主事の先生方が多くを担っていただき、ご支援いただいているなというのは、何となくひしひしと感じてはいるんですけれども、ぜひ先生たちが充実感を感じられるような、そういう学校現場になるといいなと思いつつ聞いていました。

以上です。

- （佐藤教育長） プレッシャーですけれども、頑張ります。
- （小野澤議長） 私は予算をつけるだけですから。
- （梅澤委員） 予算に関して申し上げますと、やっぱりテレビはよかったかなと思いますね。先ほど、本当に一目瞭然のプレゼンテーションをしていただいて、すばらしかったですよね。わかりやすさ、やっぱり聞くだけ。今までだとチョーク・アンド・トークと言いますが、チョークと、先生の書く時間がもったいないですね。何ページ開いて、全員が別の方を見ている、自分の教科書を見ながら。でも、全員が同じ場所を見て、同じように顔を突き合わせて、同じ情報を共有しながら授業ができるので、これはやっぱり本当に中学校まで広げて

いただいたところ、多分、予算をつけていただいた成果が、劇的には恐らく変わりません、徐々にです。余り大きい声で言ってしまうと、聞いている方に変わらないじゃないかというふうに言われちゃいますので、徐々にです。でも、徐々に変わるきっかけをいただいたなと思います。これは先生方も、そのきっかけをまさにもらったわけなので、それを上手にこれから、先ほど申し上げた伝承をしながら、上手に使える方たちの背中を見ながら、見せ合いながら、お互いの職の成長を図っていただけるといいんじゃないかなというふうに思っています。全ては子供たちのために学校教育は存在するかなと思います。

○（小野澤議長） いや、素晴らしい話だよ。それで、徐々にですからね。

○（梅澤委員） 徐々にです。

○（小野澤議長） 一気にいきたいですが、徐々に。それでテレビも、佐野室長のほうから、予算の時に熱い思いがあって、ぜひつけてくださいと、子供の学力が徐々に上がっていきますということで、つけさせてもらいましたけれども、また最大限活用してもらおうようにお願いします。

先生方は皆さん、もうできるの。

○（佐野指導室長兼教育開発センター所長） 本当に徐々にです。それで、8月に教育講演会というのを毎年やっていて、今年は往年のサッカー選手を呼んでやるんですが、その前座として、i P o d t o u c hの使い方を全校の先生方に見ていただこうと思ひまして、今日は5分でしたけれども、当日は30分間の時間をとりまして、先生たちにこういう使い方があるんだよというのを見せて、やっていきたいと思ひます。

○（小野澤議長） さっき見させてもらったけれども、あれは子供にいいよ、楽しい授業になるものね。

○（佐藤教育長） 教員が使いこなせるかどうかですよ。

○（平田委員長職務代理者） 管理職は厳しいですかね。

○（小野澤議長） でも、本当に大きな金をかけているんだから、活用してもらわないと。

○（梅澤委員） 先ほど、大貫委員がお話しされた内容は不易の部分だと思うんです。つまり時代がどう変わっても、変わらない教育方法であったり、教育の根幹の部分、これはやっぱり忘れちゃいけないかなと思うんです。方法的には、やっぱり新しいものを取り入れたほうがいい場合がもちろんありますけれども、そうではなく、変わらない部分も絶対的に必要であって、その両者のバランスをやっぱりとりながら、引っ張り合っていけるといいかなと思ひますね。

- （小野澤議長） 梅澤委員の言われたことを先生方によく伝えてください。
- （佐藤教育長） はい。今日の中身を、また機会を見て先生方に話したいと思います。とにかく今回新しくテレビを入れていただいたので、やはりそういうものに前向きに取り組む、先生方はかなりそういう気持ちのある人がたくさん、今、愛川町にはいます。本当に小中一貫教育をやりますって言ったときも、本当に不平不満が出ず、協力をして、もう前向きに取り組んでいただきました。最初はどうかと、先ほどもありましたけれども、連絡会をやったり協議会をやったりって、会議の時間がとにかくふえる。それだけでも大変なことなんです、学校現場でその時間をつくるのが。小学校中学校との連携になってくると、どうしても時間を調整したりとかって、意外と時間をとられてしまうということがありますが、でも、本当にそういう面で先生方、前向きに取り組んでいただいておりますので、テレビも、きっと i P o d t o u c h も活用されると思います。ですよ、佐野指導室長。

○（佐野指導室長兼教育開発センター所長） はい。

○（梅澤委員） ということです、町長。

○（小野澤議長） 町としても、学校にエアコンも設置して、挨拶の中でも話をさせていただきましたけれども、教育のほうへも大分予算を配分していますので、できるだけこれからの子供たちのために、しっかりと予算づけをしていきたいと思っています。ただ、その中には、総体的な予算も限られておりますので、実のある予算づけ、これを心がけて、町としてもやっていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

何か先生方のほうから、これだけはというのはございますか。いいですか。

難しい話だからね。いいですか。

どうもありがとうございました。長時間にわたりまして、いろいろと意見交換をさせていただきました。

本町では、昨年度から小中一貫教育の推進を図っているところでございます。本年度からは愛川中学校区のところが県指定を受けるなど、教育現場でのご尽力に対しまして、改めて感謝を申し上げる次第でございます。

義務教育9年間を見据えた継続的な学力、そして学習意欲の向上、さらには教育の指導力の向上など、教育の質の向上についても顕著な成果を期待したいと思っております。そのためにも、町としましては、教育委員会とより一層連携を図りながら、全力で子供たちのために充実した教育を押し進めていきたいと、そんなふうに考えております。学校教育に携わる全ての者が、知恵、工夫を出しながら、また頑張っていきたいと思っておりますので、教育委員の

皆様方には引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げ、お礼を兼ね、閉会の言葉といたします。ありがとうございました。

○（山田教育総務課長）　ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、本日予定しておりました全ての日程を終了いたしました。

本日は大変お疲れさまでした。